

【令和 4 年度議会運営委員会行政視察 復命書】

議会運営委員会 副委員長 仲山正人

1 視察日程等

(1) 日 程 令和5年1月19日(木) (1日間)

(2) 視 察 先 北海道登別市

(3) 視察目的 「オンライン委員会」について

(4) 参 加 者 山崎議長、山口委員長、仲山副委員長、松倉委員、北原委員
渡部委員、北山委員、吉谷委員

オブザーバー参加 岩満議員、落野議員、松隈議員、相沢議員、五十嵐議員
坂野議員、今野議員、宮原議員 (議席順)

2 視察結果

(1) 登別市 ①日時：令和5年1月19日(木) 13:00～15:00
②対応者： 登別市議会 辻 弘之 議長
登別市議会事務局 梅田秀人 事務局長

●説明要旨

登別市議会 辻議長より下記について御説明を受けた。

(1) 委員会でのオンライン(リモート)会議を認めるに至った経緯、現在の運用状況

- ・登別市議会におけるオンライン委員会の内容について
- ・かかる経費(イニシャル及びランニングコスト)や資機材について
- ・導入までの経緯や導入時の取り組みについて
- ・実際の委員会室を視察し、現状の課題や取り組みについて

(2) 登別市議会がこれまでに行った議会改革への取り組みについて。

早稲田大学の研究所調査で、昨年度の議会改革度調査で全国2位となるなど、議会改革の進んだ議会の取組について紹介頂いた。

- ・平成14年 議員個人にPCを貸与
- ・平成21年 議場にモニタ設置
- ・サイボウズ office を導入(ペーパーレス化)
- ・議会事務局提案制度及び議会サポーター制度の導入

●主な質疑応答

Q：オンライン委員会の開催実績について

A：委員会全体での実施はないが、これまで6回実施している。委員が、やむを得ない事由（介護・育児・感染症対応等）により委員会室での参加不可の場合に委員長の判断で承認し行っている。

Q：オンライン委員会を行うための委員会室の設備について

A：マイク・スピーカー・webカメラを導入している。費用は5万円弱。Zoom会議であれば契約金は発生するが、特に機材は無くても委員会は開催できる。

Q：委員会でリモート出席者がいる場合、委員会での休憩中のオンライン接続はどのように取り扱うか。また、採決などを取る場合は、意思表示が明確に行えるような工夫をしているか。

A：休憩中はオンライン接続の状態としている。採決の際は、挙手をする事としており、リモート上でも委員の意思表示は明確に行える。

Q：Wi-Fi環境が不安定な時の対応について

A：通信状態に不具合があれば退出をお願いしている。

Q：登別市ではすでに議会BCPを設けているが、今現在、議会オンラインシステムをBCPの中に活用している事例があればご教示願いたい。

A：議会BCPは令和2年度に策定している。このBCPの中では、「議会としての役割、議員としての行動指針」を定めている。議会としては行政の意志決定に関わるチェック機能を果たすこと、議員としては会議に出席できる体制を整えることも大事だが、被災地域における救援・復旧活動に積極的に従事し、多くの災害情報や市民意見を収集するように努めるということまで定めている。ただし、災害対策本部の指揮下にあるのは各対策本部であって、議会は主体的な役割を果たすものではなく、災害初期においては職員も災害対応で混乱状態にあるものと予想されることから、議員から問い合わせや情報の提供要請等を行わないこととしている。極めて重要性が高い場合においても、議会災害対策会議もしくは議会事務局に報告することとしている。しかし、議会の監視機能や議決といった役割を果たすには正確な情報を把握することは重要であるため、地域活動の中で積極的に運用することは制限していない。現状で議会オンラインシステムの中にDX的な要素は盛り込んでいないが、議会HPの議員紹介の欄に、議員個人の連絡先が載っており、直接フォームから特定の議員に意見を送る機能はあるので、こういうものも活用できると考えている。その他、SNSの情報収集機能を活用して議会対策会議で集約する仕組みを採っている。

Q：サイボウズオフィスの導入をしたことについて

A：執行部側が既にサイボウズオフィスを利用して、脱ハンコをきっかけにペーパーレス化を一挙に進めることとなり、議会側への資料も完全データ化をしたく執行部側から受け皿の対応への追加予算も含めた提案を受けた。議会側もペーパーレス化を進める上で資料をデータ化したいと考えていた経緯もあり導入した。メリットとしては民間用のツールなので使用にかかる料金も低め、データの取り扱える幅や連絡方法など使いやすい。

Q：リモート出席をする際の通信費は誰が負担しているか。また、ネット接続時のセキュリティについては何らかの規定を設けているか。

A：通信費は各委員負担としている。ネット接続に関するセキュリティの規定は設けていない。

●議会運営委員会 委員の感想

①登別市議会では、IT 化への取り組みを早くから行ってきた経緯があること、また、コロナ禍や災害時への対応だけではなく、議会において多様性のある議員が活動できる手段の一つとして、オンライン委員会の実現に至ったという事であった。

オンライン委員会の開催は、通信環境などの技術的リスクも考慮しなければならないが、それ以上に、リモート出席を認めることのメリットを、しっかりと議会の中で議論がなされ市民からも理解を得られなければならないと考える。

オンライン会議システムの契約費用や端末機器については、決して高価なものが必要ではなく本議会でも十分に実現可能と考える。

登別市議会においても、現在のオンライン委員会のルールや運用方法は完璧なものではなく、活用しながらさらに整備を図っていくとのことであり、まずは始めることの重要性を今回の視察をもって強く感じた。

②2001 年の地方分権一括法施行以降、全国的にも、以前のように形式主義、権威主義的な議会から、市民の声を広く聞き取り、議会や議員としての取り組みや目的・目標もオープンにする「開かれた議会」が求められており、多くの地方議会が熱心に取り組んでいる。登別市は 20 年以上にわたる議会改革の取り組みによって、現在では道内の市議会では No.1 の情報公開度を達成している。すでにパソコンやオンラインソフトを活用して、会議資料等のペーパーレス化も果たしており、例外なく全議員が活用しているとのことである。議会オンラインシステムについても、このような議会改革の一環として、広く市民に議会活動を周知するツールの一つとして運用されており、新柄コロナウィルス等が蔓延する中、委員会についてもオンライン開催と委員のリモート参加の規定を設け、すでに実績を上げている。

千歳市議会では、本会議についてはリアルタイムで配信をしているが、委員会のオンライン開催については、まだ議会運営委員会の中でも方向性が煮詰まっておらず、かなり後塵を拝していると言わざるをえない。議会公開の原則から言えば、議会内での質疑や討論はすべて市民に詳らかにすることが当たり前であり、一部の議員の恣意で情報がクローズされるようなことがあってはならない。インフラ面で言えば、オンライン委員会の開催は千歳市議会においても特に難しい要素はなく、Zoom アカウントの取得や Web カメラの設置などを行えばすぐにでも始められるのではないかと。

現在、本会議ではほとんどの議案において質疑・討論は無く、意思決定に関する議論の多くは委員会の中で行われていることから、市民への情報公開を推進するうえで、委員会のオンライン化と公開は、千歳市議会が真っ先に解決しなければならない議会改革課題だと思われる。

- ③・リモート会議の整備は、多様性の対応としても有効。当市は条例に産休等も明記した。産休や介護休でも議会活動に加われる手段の一つとして、リモート会議環境を整えるべき。
- ・執行部側のペーパーレス化も進めてもらいたいもの。
 - ・事務作業の軽減、議員の意識促進等の意味でも、議会の完全ペーパーレスを決断すべき時ではないか。
- ④・目的（オンライン化及びペーパーレス化）を明確にして、努めて軽易な方法で取り組んでいる。実行上のリスクよりも目的達成後の利便性を追求している。見習うべき姿勢だと感じた。
- ・オンライン会議に自宅から参加された議員の話によると、自分の姿だけがモニター上に大きく表示され、恥ずかしかったそうだ。議場に来られない事情によるオンライン出席なので、必要に応じてオン・オフができて良いと思う。
 - ・オンライン化当初からタブレットではなく、PCの貸与に踏み切ったことも、目的の明確化であろうと感じた。
- ⑤・オンライン委員会導入に向けての経緯や状況の説明を受けて、自分が感じていたより資機材やコスト面について導入に関するハードルは低く感じた。
（導入しやすいと感じた）
- ・懸念されていたセキュリティ対策も、元々当市の委員会も傍聴できるものであり秘密会議でない為、情報漏洩に関してさほど神経質になるものでもない事も今回の視察で理解できた。
 - ・使用している資機材は一般的なものを使用しており、特別なものはなくても活用できることが分かった。また、使用した状況に応じてブラッシュアップすればいいとも感じた。
 - ・費用に対しては議会費等で賄うべきと感じた。
 - ・先ずはやる事が肝心であり、登別市議会の熱意とスピード感に感銘を受けた。
 - ・運営規約（委員会条例の一部変更）案については、北海道議会や他の市町村共々大きな違いはなく、本市で行う場合もこれらを参考に作成すれば、それほど難しいものではないと感じた。
 - ・本市で行う場合、先ずは議会運営委員会、もしくは議運ワーキンググループを対象とし、資機材も現状あるもので実験的にいき、必要性や導入に向けた議論を加速すべきと考える。
- ⑥進んだ議会改革の経緯の話は、最近始まったことではなく、民間の方が強い・民間出の方が多く入ってきた行政であることでお役所らしくないというやや語弊はあるが、民間の手法や考え方を取り入れやすい気風がもともとあり、そこから培われてきた土台あっての今の登別市議会だと話を受ける中で感じた。
- 議会改革は市民のためになるのかといった話で関し、ほとんど市民のためにならないことを言いながらも、市民含め多様な方が参加しやすい環境を、声を意見を出しやすい環境を追求してきたからこそ、一般的な行政だと歩みが遅いようなことや取り入れられないような考えも入れられてきて、そういった気風が市民に受け入れられ議員の取り組

みが市民に還元されやすい環境作りにつながっているとも感じた。

特に今回感銘を受けたのは、議会事務局職員提案制度についてである。議員よりも議会議事ルール・規約規則に通じ、こうしたら市議会が議員がもっと機能的にもっと応用の幅のある活動出来るであろうと提案できるのに議員の影響力が強いばかりなかなか改革改良の発言機会を得ることが少ない議会事務局の提案を受け入れる、議員一辺倒の議会じゃないというところが目からウロコ。

現状、千歳市議会での様々な取り決め・慣例はあるがそれらが現代において効率的機能的かと問われると微妙なものもある、をこうしたらもっと良くなるのに…という思いは議会事務局側も思うところではなかろうか、そうした声を提案を受け入れて一緒に歩んでいく姿勢がとても良いと感じた。

- ⑦これまで議会運営委員会でリモート会議について議論を重ねてきたが、なかなか前へ進まなかった。実施されている自治体を視察させていただき、リモート会議が実現できる様に今視察を計画した。視察先の登別市議会は、議会改革などを通し先進的な取組をされていることを事前に知り大変興味を持って視察させていただいた。期待通りの視察となり、特に「議会改革のススメ」の中で話された「多様性のある議会の実現にむけて」への取組が強く心に残り、大切な考え方であると受止めた。今後、実際のオンライン委員会の導入に向けて、御教示いただいた内容と必要性の議論を加速化し、実行が可能となるよう市議会委員会条例の見直し等も含め検討していきたい。

●オブザーバー参加 議員の感想

- ①議会改革は住民評価につながるものではないけれど、それは「議員が仕事をするための職場改善」であり、より良いまちづくりに大きく貢献する、重要なものだとは再認識しました。その議会改革が大きく前進している、登別市議会の風通しの良さを感じました。人事に関わる案件を扱う会派会長会議についても、原則公開としているとのこと、その思いを強くしました。

登別市議会が、資料をパソコンで（タブレットではなく）見られて、議会ホームページを議員が更新していくこと、そして市民から直接議員に対して声を届けられるシステムも、先進的だと感じました。

議会にお行ける「市民サポーター」制度も、とても素晴らしいと感じました。ぜひ、千歳市議会でも導入を検討したいです。

- ②要件や難点をあまり厳しく考えると前に進みにくいのではないのでしょうか。必要な場面で、できる範囲でまず動いてみるという積極的な姿勢に感心しました。常識と社会通念で判断できるところは多いと思います。

- ③オンライン委員会のみならず議会改革全般のお話を伺うことができたので、大変勉強になった。オンライン委員会については、子育てや介護等でやむを得ず参加することがで

きない場合、オンラインでの参加ができるということは、議員の多様性に伴いとても大切なことだと感じた。

登別市は、いち早くノートパソコンを全議員に貸与し、議会中継や議場でのパワーポイントを使用しての質問、ペーパーレス化等々、先進的に取り組まれていることを伺い、タブレットよりもノートパソコンの方が使い勝手が良いのかもしれないと、当市においても検討が必要なのではないかと感じた。

- ④丁寧に説明をいただき、目からうろこだった。「こんな簡単なことをなぜ悩んでいたのだろう」と思えるほどだった。千歳市議会は簡単なことを難しく四角四面にとらえて、がんじがらめになりがちなのかもしれない。先例にとらわれず、新しい技術等を取り入れられる柔軟な市議会となり、その姿勢を市民のために生かしていきたい。

- ⑤議会運営において常任委員会の開催をリモートで行えるようにした改革に対する視察であった。度重なる自然災害および感染症対策で総務省よりリモート議会への積極的取組が促されている現状において、課題を整理し早々に導入できたことは大いに評価できる。しかしながら、同時に思うことは我が議会では遅々として当該制度導入が進まないのはなぜだろうか？数年前のタブレット導入時から議会棟には Wi-Fi が整備され個々の議員は各自 1 台の端末が支給されている。会議公開の原則にのっとり如何にしてリモート会議を開けば良いのか、現実的な取り組みは今回の視察で十分に理解できた。もっと良い内容にすることは後々取組むことにして、全てを真似てでも一日も早く導入することが議会運営上の喫緊の課題と思われるし、市民利益に繋がると考える。

- ⑥オンライン委員会の導入は、リモートにより出席が可能となる方法としては、とても有効的な方法論の一つと感じた。特に現在のコロナ禍における感染予防をはじめ、やむを得ない事情等において、これまで欠席するしかないケースから、新たな選択肢が加わったことが大きな意義であり、ここが登別議会が主張する「多様な人材が議会に参画出来る」ということなのだろう。

オンライン委員会を導入するにあたり改定した委員会条例では、「オンライン会議への出席を希望するときは、あらかじめ委員長の許可を得る」となっているが、様々なケースを想定しての判断となることから、委員長の判断力も重要となることが想像される。あくまでも、常識的な範疇内での判断とのことだが、今後、どのようなケースにおいてオンラインが活用されていくのか注目していきたい。また、導入するに際し、費用も決して高額ではない形から始められそうなことから、千歳市議会としても検討の余地はあるのではとも感じる。

- ⑦登別市議会議長の辻議長自らの説明を頂き、オンライン会議の実施にいたる経緯とご苦労した話など現地に行かなければわからない事まで詳しく説明頂きました。

私が印象に残ったのは次の 2 点であります

- ・コロナウイルス感染対策や災害時及び育児議員の対応などに適するオンライン会議の活用がなされており我が市の議会でも取り入れについて検討が必要であると思いました（議会改革の中で）
- ・会議等で使用する道具としては、当市で使用しているタブレットよりも PC の方が利用

価値があり、事後の機種変更時期には検討する必要があると思料しました。